

## 「自治体間連携の深化によって、今、広がる可能性」

12日、静岡県南伊豆町の休暇村南伊豆で、「第五回地方創生・交流自治体連携フォーラム」が開催されました。このフォーラムは、杉並区と国内の8つの交流自治体が一堂に会して、課題の共有とその解決に向けた連携事業の具体化に向けた討議を行い、都市と地方の共存共栄を目指すことを目的としています。今回のテーマは、「自治体間連携の深化によって、今、広がる可能性」と題して、これまでのフォーラムでの議論等を踏まえ、既存の連携事業の多展開・横展開等を検討するとともに、「子ども」と「2020年東京オリパラ」をキーワードとして、交流自治体の住民同士の交流を促すホームステイ事業などの新たな取組についての話し合いが行われました。

本日12日午前9時30分から2時間に渡り、杉並区・杉並区の交流自治体8自治体の首長らが熱い議論を重ねました。

「第五回地方創生・交流自治体連携フォーラム」では、最初に、過去のフォーラムで議論された、コスト面などで課題のある交流自治体の特産品を扱うアンテナショップの区内への設置に代わる「アンテナショップの新しい形」のひとつの展開事例として、南伊豆町、南相馬市、名寄市から、区内飲食店と交流自治体の連携による「食」を通じたプロモーションに関する報告がありました。この取り組みは、「食」を通じて街をプロモーションするという交流自治体のニーズと、特色のある取組を行いたいという飲食店側のニーズを掛け合わせた新しい取組で、取組への期待や今後の展開の可能性についての議論が行われました。

さらに、今回の目玉とも言える新たな取組として、ホームステイ・ホームビジット事業が報告されました。この事業は、杉並区が今年度に予算化したもので、2020年東京オリパラを契機として、区民と国内外の交流自治体の住民との交流を促進するための取組です。交流自治体の子どもたちが区内に滞在することができる仕組みづくりを行うこと、現在行っている様々な交流事業にホームステイやホームビジットを交流自治体間で相互に取り入れていくことなどが話し合われました。この提案には、交流自治体からも大きな賛同があり、相互交流につながる、いわば親戚付き合いのような形ができると評価されました。



### ■第五回地方創生・交流自治体連携フォーラム参加者

名寄市長 加藤剛士、東吾妻町長 中澤恒喜、小千谷市長 大塚昇一、北塩原村長 小椋敏一、南相馬市長 門馬和夫、青梅市副市長 池田央、忍野村副村長 渡辺公彦、南伊豆町長 岡部克仁、杉並区長 田中良、東京大学名誉教授 大森彌、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長 頼あゆみ、杉並区顧問 増田寛也

[問い合わせ先]

区民生活部地域活性化推進担当：03-3312-2111 内線 3771